

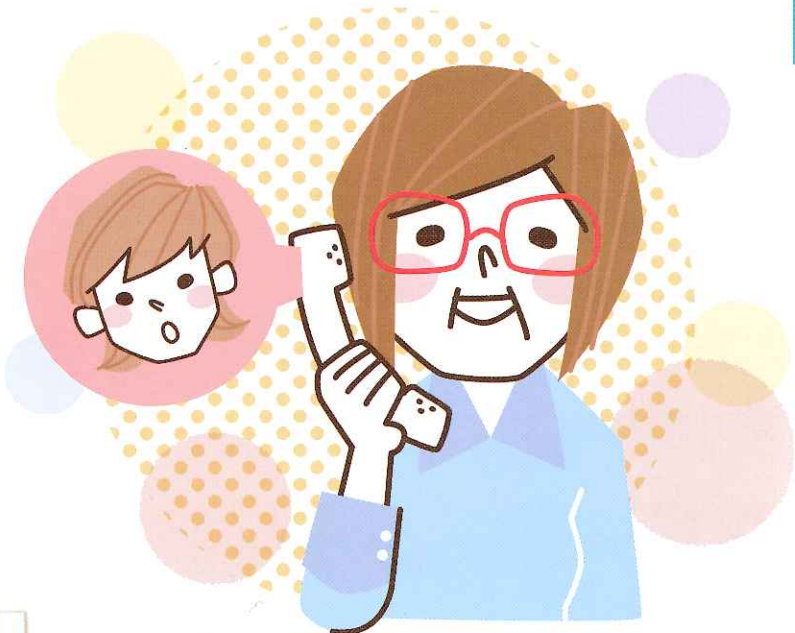
はつらつ通信

Vol.28

Medical Information "HATSURATSU"

高齢化社会の進展に伴い佐賀県内でも**認知症の方が増加**しています。佐賀県医師会では、佐賀県や関係機関などと協力し、認知症の方のサポート体制の充実を図っています。今号では県民のみなさまに認知症の方やそのご家族の**サポート体制と、認知症の症状や治療方法**に関心を持っていただくよう、「認知症」をテーマに取り上げました。

認知症の方とその家族が抱える悩みは、認知症の症状や介護、精神的なことまで多岐にわたります。そのため、佐賀県によって認知症の方とその家族等の電話相談窓口として「**認知症コールセンター**」が開設されました。



こんなときは一人で悩まず
センターにお電話してください。
相談員が悩みをお聴きします。

- 認知症かどうか不安・・・
- 認知症の介護に困っている
話を聞いてほしい
- 認知症に関する介護サービスが
知りたい
- 認知症について
受診するところが知りたい
…など

認知症コールセンター

開設日

平成 23 年 8 月 3 日 水

電話番号

みんな で支える やさしい介護 より 良 い老 後

0952-37-8545

受付時間

毎週月、水、金(週3日)の
午前10時から午後3時
ただし、祝日及び年末年始
(12月29日～1月3日)を除く。

相談員

公益社団法人認知症の人と家族の会佐賀県支部会員

相談料
無料

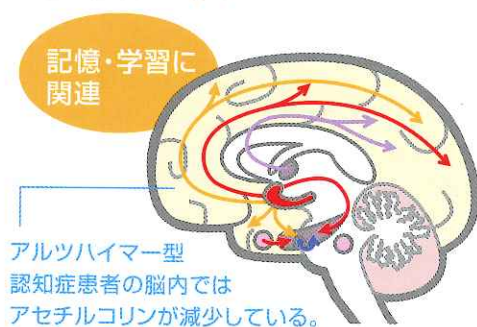
通話料金は
相談者負担

アルツハイマー型認知症の新しい薬

わが国ではこの10年以上もの間、アルツハイマー型認知症の治療薬はドネペジル(アリセプト®)という薬だけでした。今年になって、アルツハイマー型認知症の薬が新たに3種類使えるようになりました。このうち、ガランタミン(レミニール®)とリバスチグ

ミン(イクセロンパッチ®)の2つはドネペジルと同様、脳内のアセチルコリンの減少を補う作用を持っています。これまでドネペジルの効果が乏しい患者さんや、副作用のために使えなかった患者さんにも用いることができるなど、治療の選択肢が広がりました。

アルツハイマー型認知症とアセチルコリン



他のタイプの認知症の治療にも

これらの薬はアルツハイマー型認知症に次いで多いとされるレビー小体型認知症や血管性認知症にも有効であるともいわれており、他のタイプの認知症の患者さんの治療に使われることもあります。

別の作用を持つ治療薬

さらに、メマンチン(メマリー®)という別のタイプの薬も使えるようになり、アセチルコリンの減少を補うタイプの薬と併用することで治療効果が上がるのではないかと期待されています。

早期発見・早期治療の重要性

軽度認知障害(MCI)という状態が近年注目されています。たとえば、記憶

は同年代の人と比べてかなり悪くなっているが、その他の脳の働きは認知症

というほど低下していない人たちがこれにあたります。このような人たちは、数年の間に認知症になってしまう可能性が高いことがわかってきました。軽度認知障害の段階で治療を始めれば、認知症への進行を遅らせることができる可能性があります。ご自分やご家族に物忘れがあるなどと思われたら、早めに専門機関で相談することが大切です。

軽度認知障害(MCI)から認知症への移行



MCIは認知症の前段階であると考えられています。MCIの人たちは、認知症に移行する可能性のあるハイリスク群といえます。

認知症サポーターになるには?

各市町で行っている「認知症サポーター養成講座」を受講していただくと誰でもなることができます。認知症の症状や認知症の方との接し方など60～90分の講座です。

受講いただくと認知症サポーターとなり、「認知症の方を応援します」という意思を示す目印のオレンジリングが渡されます。

サポーターは登録されるものではありませんので、気軽に受講することができます。

認知症サポーターの窓口は?

「認知症サポーターになりたい」「認知症について知りたい」と思われたら、お住まいの市町(行政の担当課)にご相談ください。

認知症の方の杖になる

周囲の方が認知症について理解し、認知症の方のできない部分を補う「杖」となってください。ほんの少しの手助けで認知症の方が自分で行えることが増え、おだやかに暮らしていくことができます。



認知症の治療

協力：肥前精神医療センター 橋本 学 先生

認知症の治療はお早めに！

認知症には原因ごとに様々なタイプがありますが、なかでも重要なのがアルツハイマー型認知症です。すべての認知症の中で、アルツハイマー型が5～6割を占めているためです。このタイプの認知症に新しい治療薬が登場して、認知症の治療現場が変わろうとしています。



アルツハイマー型認知症の症状

アルツハイマー型認知症で重要な症状は認知機能障害です。これを中核症状といいます。この他に、中核症状をとりまく行動・心理症状と

いろいろな精神症状や行動異常が出現することがあります。このうち、アルツハイマー型認知症の治療薬は、主として中核症状に対して

用い、行動・心理症状には別の種類の薬や介護・ケアの工夫で対処するのが一般的です。

認知症の中核症状と行動・心理症状

中核症状 (認知機能障害)

- ☐ 少し前のことを思い出せない、新しいことを覚えられない(記憶障害)
- ☐ 段取りや計画が立てられない(遂行機能障害)
- ☐ 道具の使い方や服の着方がわからない(失行)
- ☐ 物の名前が言えない(失語)
- ☐ 品物をみても何であるかわからない(失認)

中核症状の周辺をとりまいているのが
行動・心理症状です

夜中に急におかしなことを言ったり興奮する
夜間せん妄

イライラして
落ち着かない
焦燥

必要以上に身体のおちこちの具合を気にする
心気症

1人にされると
落ち着かなくなる

ささいなことで
大声を出したり、
暴力をふるう
攻撃的言動

抑うつ状態

実際にはないものが見える
幻視

入浴や着替えを嫌がる
介護に対する抵抗

財布や貴重品を盗まれたという
物盗られ妄想

不眠

目の前にある物は何でも食べてしまう
過食

目を離すとすぐに外に出ていこうとする

屋外を無目的に歩き回る
徘徊

認知症サポーターになりませんか？

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気で、85歳以上の4人に1人に症状があるといわれています。

佐賀県では、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症サポーターが養成されています。佐賀県には、2010年度末現在、19,501人の認知症サポーターがいます。

認知症サポーターとは？

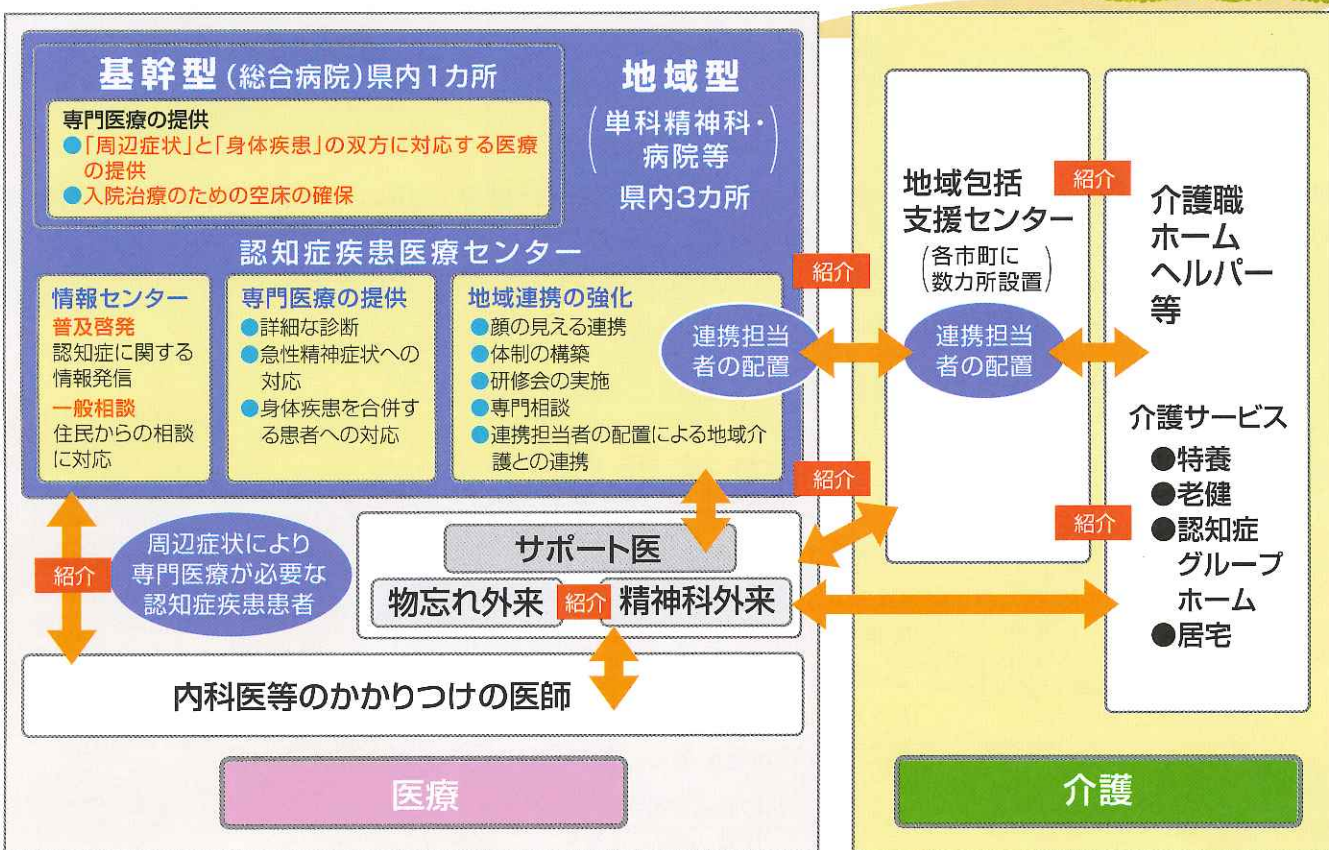
認知症の方の理解者・応援者

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方や家族に対して温かい目で見守る応援者です。何か特別なことをする人ではありません。

認知症は誰にでも起こりうる可能性があることを認識し、認知症の方やその家族の気持ちを理解しようと努めることも認知症サポーターの役割です。

認知症疾患医療センターが 今年度中に設置されます

佐賀県では認知症疾患医療センターを設置し、認知症高齢者が住み慣れた地域や自宅で安心して暮らせるよう、早期診断から適切な介護につなげる医療介護の連携強化を図ります。



認知症疾患医療センターでは、専門医、精神保健福祉士、臨床心理技術者等を配置して次の業務が行われます。

認知症疾患医療センターの主な業務

- 電話・面談による専門医療相談
- 地域包括支援センターとの連携
- 医療機関等の紹介
- 認知症医療に関する情報発信
- 診断・治療
- かかりつけ医等への研修

設置場所は、画像診断、神経心理学的検査等の総合的評価が可能な病院の中から佐賀県が4カ所を23年度中に指定します。

認知症は早期診断が大切です。疾患によっては治るものや、進行を遅らせることができます。自分が、または家族が「何かが今までとは違う」「物忘れがひどくなった」「認知症かな?」と思ったら、まずは、かかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談しましょう。